

## （２）西条ブロック（新居浜市、西条市）

### ～産地づくり～

農地・水の保全と水田農業の推進に努めるとともに、消費者に求められる野菜・花きの生産振興及び落葉果樹を核とした果樹産地の復活を目指します。また、流通・販売を見据えて、安全・安心な農産物が安定供給できる農業を推進します。

### ～推進品目や産地づくりの方向～

#### ○農地・水の保全と水田農業の推進

##### 1 県育成品種「ひめの凜」の安定生産と輪作体系の推進

###### 【取組】

- 栽培講習会の開催（栽培マニュアル・中干し・穂肥施用・栽培者募集）で栽培管理を徹底：18回で延べ787人の認定栽培者に指導

###### 【成果】

- 栽培面積：635ha〔R5：440ha、R4：303ha、R3：164ha〕
- 認定栽培者：428人〔R5：282人、R4：199人、R3：122人〕
- 集荷量：1,916t〔R5：1,700t、R4：1,187t、R3：722t〕
- 1等米比率：46%〔R5：93%、R4：42%、R3：95%〕
- 麦跡の輪作取組面積：438ha〔R5：201ha、R4：169ha、R3：74ha〕

##### 2 「ハルヒメボシ」の収量・品質向上

###### 【取組】

- 栽培指針や専用肥料の検討を行い指導内容を統一
- 単収向上や省力化を目指し、栽培講習会で適期播種・雑草対策・排水対策・化学肥料低減技術及び適期収穫を指導：4回で延べ101人

###### 【成果】

- 生産量：2,237t〔R5：2,460t、R4：2,165t、R3：3,725t〕
- 10aあたり収量：225kg〔R5：276kg、R4：287kg、R3：381kg〕
- 1等比率：0%〔R5：66%、R4：68%、R3：0%〕

##### 3 大豆「フクユタカ」の生産振興

###### 【取組】

- 適期播種や排水・病虫害対策及び適期収穫を指導

###### 【成果】

- 栽培面積：143ha〔R5：144ha、R4：166ha、R3：148ha〕

##### 4 スマート農業の推進

###### 【取組】

- 水田作業の省力化を図るため、自動給水装置や自動抑草ロボット等の導入実証を指導

###### 【成果】

- 現地実証ほ1カ所において、自動給水装置の実用性を確認



「ひめの凜」栽培講習会



麦秋（収穫期）の状況



スマート農業実証ほ

#### ○流通販売を見据えた野菜・花き産地の強化

##### 1 いちご県育成品種の生産拡大

###### 【取組】

- 栽培環境のモニタリングデータを活用した栽培管理技術の普及
- モニタリングデータを活用した高単収プロジェクトチーム活動
- 月1回以上の巡回個別指導や講習会（55回、参加者延べ67人）を通じ、県オリジナル品種を中心に、栽培技術の高度化を支援
- 多様な販売網の構築支援

###### 【成果】

- 栽培環境モニタリングデータ活用講習会の開催
- 高単収実証プロジェクトに取り組むチーム員の増加（4人→6人）
- 〔・県オリジナル品種栽培面積：4.5ha〔R5：4.7ha、R34：4.6ha〕  
〔・10aあたり収量：4.5t〔R4～R5産：4.7t、R3～R4産：4.6t〕〕
- 自販機の設置支援や、ECサイトのデザインの改善支援



高単収実証プロジェクト  
チーム活動の一環として  
開催した互評会

## 2 さといもの収量・品質向上による産地拡大

### 【取組】

- ① 高品質安定生産を図るため、関係機関と協力した疫病発生連絡体制の構築と防除指導の徹底
- ② 優良種苗確保に向け、親芋副芽セル苗増殖法を用いた種苗生産技術を導入したモデル農家を育成（モデル農家3人）
- ③ JA広報誌（JA周桑、JAえひめ未来）等を活用し、新規栽培者を確保

### 【成果】

- ① 疫病発生面積率：48%〔R5：60%、R4：8%、R3：54%〕
- ② 栽培面積：93ha〔R5：90ha、R4：88ha、R3：80ha〕
- ③ 〔・出荷者数：329人〔R5：345人、R4：389人、R3：405人〕  
〔・次年新規栽培者数：5人〔R5：4人、R4：8人、R3：9人〕

## 3 栽培技術の平準化によるメロン産地の拡大

### 【取組】

- ① 連作障害を軽減するための栽培技術の普及
- ② 適正な灌水・施肥等の栽培管理の把握と、実証ほの設置

### 【成果】

- ① 土壌分析を69件実施し、結果をもとに土壌改善を指導
- ② 〔・土壌水分データ等から、適切なかん水管理方法を検討  
〔・栽培面積：3.8 ha〔R5：4.2ha、R4：4.5ha〕  
〔・生産量：85 t〔R5：90t、R4：95t〕

## 4 「花き」の安定生産技術の普及と販売促進活動の支援

### 【取組】

- ① 収穫本数向上を図る栽培管理技術の実証
- ② 現在の秋冬期から、周年出荷を目指した「新規品目」の選定
- ③ 優良苗の安定供給に向けた苗増殖技術の普及
- ④ 東予地域の各産地が連携した生産振興と販売促進の取組支援

### 【成果】

- ① 〔・「メラレウカ」の葉先枯れ対策で、かん水実証試験を実施し、無かん水に比べ、正品率が53ポイント向上  
〔・実証ほによる試験結果を、せん定講習会で周知（3/17）
- ② 新規有望31品目を15品目に絞り込み
- ③ 丹原高等学校と連携し、挿し木技術の開発に着手
- ④ 〔・東予地域花木栽培面積：9.3ha〔R5：5.1ha、R4：3.5ha、R3：2.5ha〕  
〔・広域技術連携会議を開催し、新規栽培者確保に活用するためのパンフレットを作成



親芋副芽セル苗増殖法  
を用いた講習会



メロンの施肥講習会



「メラレウカ」の葉先枯れ  
対策の実証調査

## ○落葉果樹を核にした産地の復活

### 1 「太天」の大玉果安定生産

#### 【取組】

- ① 大玉果生産に向けた栽培講習会※1 と面積拡大の推進  
※1：摘蕾（4/24：25人）、摘果（7/16：25人）
- ② 汚損果軽減を図るため、関係機関と連携し実証ほ※2 を設置  
※2：9～10月にカルシウム剤を散布し、品質を調査
- ③ 作業性と正品率の向上等を図るため平棚栽培を推進

#### 【成果】

- ① 〔・栽培面積：7.8ha〔R5：7.8ha、R4：7.2ha、R3：7.1ha〕  
〔・生産量：84t〔R5：55t、R4：81t、R3：67.8t〕
- ② 正品率：72.8%〔R5：85%、R4：80%、R3：71%〕
- ③ 棚栽培面積：1.8ha〔R5：1.8ha、R4：1.5ha、R3：1.5ha〕

### 2 「サンゴールド（キウイフルーツ）」の生産振興

#### 【取組】

- ・キウイフルーツかいよう病に強い「サンゴールド」への改植を推進
- ・大規模栽培法人への支援

#### 【成果】

- ・栽培面積：79.8ha〔R5：79.4ha、R4：77.4ha、R3：62.8ha〕  
うち「サンゴールド」：31.4ha〔R5：30.4ha、R4：29.4ha、R3：14.5ha〕
- ・生産量：660t〔R5：658t、R4：671t、R3：609t〕  
うち「サンゴールド」：174t〔R5：144t、R4：103t、R3：97t〕



大玉果に向けた摘果講習



## ～地域づくり～

重点課題として、①地域農業を支える担い手の確保・育成、②地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり、③地域資源を活用した農業再生、の3項目を推進します。

そのために、農福連携、鳥獣被害対策、6次産業化、荒廃農地対策等を総合的に組み合わせた地域づくりにも取り組みます。

## ～推進対象や地域づくりの方向～

### ○地域農業を支える担い手の確保・育成

#### 1 農家アドバイザーによる担い手育成の強化

##### 【取組】

- ・農業指導士、認定農業者協議会理事他33人を地域農業者のアドバイザーとしてリスト化し、指導・支援体制を整備

##### 【成果】

- ・農家アドバイザーの指導により、地域農業者の実践的な栽培技術や農業経営の知識が向上

#### 2 将来のリーダー的農家の確保、育成

##### 【取組】

- ① 市、JAと連携し、新規就農手引きの作成、就農相談活動を実施（西条、周桑、新居浜の3地区で51人、計74回の就農相談を実施）
- ②
  - ・就農初期農業者への技術指導
  - ・アドバイザーを活用した研修会開催：2回、参加者16人
  - ・農業基礎技術習得に向けた研修会を開催：9回、参加者159人
  - ・アドバイザーによる個別サポート（随時）
- ③ 就農5年目未満の就農計画目標未達成者9人を重点指導対象者とし、JA・市・県で月1回以上の定期巡回を実施し、技術や経営面を重点的に指導した結果、目標に近づきつつある。

##### 【成果】

- ① 新規就農者確保：14人〔R5：38人、R4：16人、R3：18人〕
- ② 研修会による基礎技術の習得により、農業経営の意欲が向上
- ③
  - ・認定新規就農者の認定に係る事前面談会の開催
  - ・認定新規就農者認定：10人〔R5：10人、R4：4人、R3：2人〕
  - ・認定新規就農者から認定農業者へ移行：2人〔R5：5人、R4：6人、R3：5人〕



作成した手引きを  
就農相談会にて活用



農家アドバイザーを  
活用した研修会



就農初期農業者を対象と  
した研修会の開催

### ○地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり

#### 1 多様な担い手による農業法人（集落）の労働補完促進

##### 【取組】

- ① JA及び県と福祉事業所による農作業マッチング体制を確立
- ② さといも収穫作業及びアスパラガス枝運び出し作業のマッチングを実施
- ③ 集落外からの担い手候補受入れのため、法人の受入体制を検討
- ④ 短期雇用や有償ボランティアなどの活用を啓発

##### 【成果】

- ① さといも収穫作業の農福連携利用状況：13件 1,154a〔R5：16件 1,095a、R4：14件 1,190a、R3：3件 270a〕
- ② アスパラガス枝運び出し作業の農福連携利用状況：3件
- ③ 1法人が集落外から移住希望者1人を受け入れ、担い手候補を確保
- ④ 1法人が有償ボランティアのさといも収穫イベントを受け入れ



さといも収穫作業を説明



新たな担い手受入れ検討

## 2 鳥獣害対策の推進

### 【取組】

- ① 広域化するニホンザル被害の課題解決策を検討
  - ・ 東予東部地域鳥獣害対策連携会の設置
  - ・ 技術導入に向けた専門事業者との連携
- ② 取組実践集落の育成によるニホンザル被害対策を推進
  - ・ 加害レベルの調査及び判定の実施
  - ・ 実践活動事例の作成
  - ・ 取組実践集落における活動支援
  - ・ 大型捕獲檻導入支援（集落体制整備等）

### 【成果】

- ①
    - ・ 東予東部地域の被害、取組状況について情報共有
    - ・ 集落における対策技術の向上（捕獲地選定、捕獲手法等）
  - ②
    - ・ 取組実践集落における捕獲の進展
    - ・ 大型捕獲檻の導入・捕獲の実施
- ①② 鳥獣被害額：17,248千円  
〔R5：12,854千円、R4：14,149千円、R3：15,158千円〕  
うちニホンザルによる被害額：5,909千円  
〔R5：3,752千円、R4：4,994千円、R3：4,019千円〕



専門事業者による捕獲指導



大型捕獲檻による捕獲

## 〇地域資源を活用した農業再生

### 1 地産地消の推進

#### 【取組】

- ① 産直市向け高収益作物として軽量野菜（ミニトマト「プチぷよ」）の導入を推進
  - ・ 実証ほの設置：2か所
  - ・ 栽培講習会を開催：3回
- ② 「白いも」の施肥及びコガネムシ類防除薬剤試験による収量・品質向上効果の実証
- ③ デジタルを活用した地産地消・食育推進
  - ・ 地産地消・食育推進のポータルサイト開設
  - ・ 作物育成シミュレーションゲーム出前授業実施（西条市）
  - ・ リアル・デジタル農業体験実施（新居浜市）
  - ・ 地産地消に関する動画（農業者情報・地場産品情報）及び家庭で使える地場産品活用レシピ動画作成
  - ・ 東予地域地産地消・食育推進連携会の開催

#### 【成果】

- ① 産直市販売額：3.2億円  
〔R5：2.5億円、R4：2.3億円、R3：2.2億円〕
- ② 収量は試験区の方が多かったが、平均単収以下のため効果は判然としなかった。防除では、試験区・慣行区とも虫害がなく、薬剤の効果に差はみられなかった。  
〔試験区：1.2t/10a、慣行区：0.8t/10a〕
- ③
  - ・ 地産地消の意識が向上
  - ・ 子供たちが地場産農産物についてより深く理解
  - ・ リアルとデジタルを効果的に組み合わせ一連の農作業を体験
  - ・ 学校給食地場産品利用率の県平均（45%：R3）の達成市町数：4市町※  
〔R5：4市町、R4：3市町、R3：2市町※〕  
※東予管内5市町が対象



栽培講習会



「白いも」の実証ほ  
収穫作業



デジタル農業体験の  
授業風景



## ～水田圃場整備を推進して農地集積を図ります～

### ○大区画化により担い手への農地の集積・集約化を目指す

#### 1 県営ほ場整備事業

##### 【取組】

- ① 実施中の5地区（氷見上部、新宮・藤木、大頭、道場、安井）において、早期完成に向け工事を実施
- ② 新規1地区（一本松・新屋敷）において、測量設計を実施

##### 【成果】

- ① 令和6年度までに134haが整備され、3地区（氷見上部、新宮・藤木、道場）の工事が令和6年度に完了
- ② 区画整理工事図面の作成が完了

#### 2 国営ほ場整備事業「道前平野地区」

##### 【取組】

- ・円滑な事業実施に向け、国及び市等との連絡調整を図るとともに、地元のほ場整備委員会及び地権者に対し、合意形成に向けた説明会を実施

##### 【成果】

- ・国営ほ場整備事業「道前平野地区」19団地、654haのうち、令和6年度までに8団地で217haが整備され、大区画農地で作付けを開始

#### 3 団体営ほ場整備事業

##### 【取組】

- ・実施中の2地区（飯岡亀の甲、庄内五ヶ谷池下）において、令和6年度は省力化実証、測量設計等を実施

##### 【成果】

- ・実施中の2地区（飯岡亀の甲、庄内五ヶ谷池下）において、ラジコン草刈機の導入効果とりまとめ及び区画整理工事図面の作成が完了



県営事業で整備された農地



地権者会開催状況（国営事業）



整備後の作付状況（白菜）



ラジコン草刈機の実証

## ～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し畜産基盤の承継を図ります～

### ○次代の担い手への経営継承支援

#### 1 畜産新技術等導入支援事業

##### 【取組】

- ・新技術等を導入するための体制整備を希望する農家に対し、補助事業や資金の情報提供と円滑な新技術導入を支援

##### 【成果】

- ・生産性向上を目的とした飼料資材による新技術導入支援：2戸
- ・新技術等導入を用いた既存施設の補改修支援：1戸

#### 2 家畜伝染病の発生予防技術の導入やまん延防止体制の推進

##### 【取組】

- ・家畜伝染病を予防するための衛生管理技術指導及び補助事業や資金の情報提供

##### 【成果】

- ・家畜伝染病予防法第6条に基づく、豚熱の予防的ワクチン接種支援：5戸



生産性向上のための  
飼料資材の導入



省力的な糞尿処理のための  
固液分離機の導入